

活動名		団体名	ぐるぐる海友舎プロジェクト実行委員会
ぐるぐる島ペインティングプロジェクト 一島の地域資産を活用した島の未来を担う人材教育		地域	広島県江田島市
		代表者	役員 谷村 仰仕
		支援金額	46万円
活動概要	<p>江田島の自然、建築、人といった地域資産を活かした“素敵体験”イベントを通じて、子供達が将来、島で働きたいと自然と思ってもらえるような思い出づくりをおこなう。ただし、主催者、学生スタッフ、そして保護者といった大人達も子供達と一緒に取り組める内容を目指す。その結果、地域を愛する多世代との協働作業を通じて自然や歴史、そして仕事への興味関心を涵養する。また、一過性のイベントで終止するのではなく、シリーズものとしてイベントを開催。各回のイベントのクライマックスには、体験した内容を題材に参加者全員でアクションペインティングを行う。最終的に、それらの絵をひとつに編纂し「動く絵本」として完成させるプロジェクト。</p> <p><b>◆実施時期</b> 2015/7/30～2016/3/3</p> <p>場所： 江田島の各所（長瀬海岸、海友舎、三高ダム麓の芋畑、ポークアンドチキン江田島）、白島集会所、広島国際大学呉キャンパス</p> <p><b>◆参加人数</b> 子供 55名、大人 40名、スタッフ 41名、講師 16名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：152名</p>		



「海」のリズム・アドベンチャー  
【SUP 体験！SUP 筏で大冒険！】



「土」のリズム・アドベンチャー  
【陶芸体験！おぼけスタンプづくり！】



「大地」のリズム・アドベンチャー  
【芋掘り体験！一番でっかい芋はどれだ！】



「生き物」のリズム・アドベンチャー  
【乗馬体験！ぐるぐる動物園をつくらう！】

#### ◆実施に伴う効果

この度、メイン会場となった海友舎は築 110 年の木造洋館であるため、貴重な歴史的建造物である一方で、老朽化や改築などにより使用する際に一部注意を要するところもある。そのため、当初は子供達を受け入れることに心理的な抵抗があったが、今回の活動を通じてそのような心配が軽減され、むしろ将来性を鑑みて子供達にも積極的に開放していこうという想いを強める結果となった。

現に、呉市のこども会のイベントの一環として 50 名ほどの子供達を対象とした陶芸教室の会場として海友舎を使用したいといった打診があった際も以前ならお断りしていた可能性が高いが、今回の活動での経験が自信となり実現することができた。50 名ほどの子供達が海友舎で陶芸づくりにワイワイと勤しんだ風景は圧巻であった。建物は使われることによって命が宿ることを再確認できた。協力頂いたスタッフと多くの関係者に感謝が尽きない。

各回のイベントの具体的な内容については、講師役を引き受けてくれた江田島を拠点に活動する他の団体の代表者と打合せの上決めたので、団体間の相互理解や連携強化につながった。

喜ばしい予想外な副産物もうまれた。今回学生ボランティアスタッフとして活動に参加した学生の 1 人はこのイベントをきっかけに島に移住し、協力活動団体の 1 つでこの 4 月から働くことになった。就労支援や若者の移住促進にも繋がったことは望外の喜びである。

参加した保護者からは、「江田島にこんな素晴らしい場所があることを知らなかった。」「思っていたよりも江田島が近いことがわかった」「定期的に開催してほしい」「一家族だとここまで盛り沢山なプログラムは用意できない。充実した内容で大変面白かった。」「子供達が将来大人になったときに思い出してほしい貴重な体験になった」などの感想を頂いた。江田島との心理的な距離感を縮める一助になっていった様子にさらなる可能性を感じた。

子供達にもヒアリングしたところ、人気が高かったのは、やはり皆で一緒に取り組んだ「SUP 筏で冒険しよう!」や全員で一緒に描いた「ETAGURAM」などのアクションペインティングであった。子供たちの中に協働する面白さが少しでも芽生えたのなら嬉しい限りである。

#### ◆苦勞した点

保護者からは夏休み期間にイベントを多数開催してほしいとの要望が多かったが、スタッフのほとんどが社会人であるため平日の開催が難しく苦勞した。スタッフの声掛けやケアもあって、幸運にも今回は怪我人や病人を出さなかった。ただ、参加者の中には小さなお子さんを伴って参加される方も多く、特に夏場の期間は熱中症等の対策には苦勞を要した。

予算は講師役を引き受けてくれた地域の方々への理解と多大な協力により助成金と参加費で滞りなく実現できた。参加者は Facebook やロコミなどで問題なく集めることができた。イベントの企画協力や会場の提供や備品の貸し出しなど地域や協力者の皆さんも協力的であった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

ぐるぐる海友舎プロジェクトには様々な特技を持った個性的なメンバーが 20 名ほどいる。しかし、今回江田島の地域の方々へ講師役として招聘し、メンバーはサポート役に徹してくれたこともあって、メンバーのスキルを存分に活かしきれなかった。その点が最大の反省点である。親子で参加してもらったイベントに拘ったため、各回の参加人数の定員が 20 名ほどに限定することになった。参加者の輪をどうやって広げていくかについては今後課題としたい。

一方で展開のヒントも多く得た。当初、島外からの参加者が多いものと予想していたが、島内の参加者も意外に多かった。特に夏休み期間は両者とも子供向けのイベントを求めていることが分かった。また、初めは遠慮がちに参加していた保護者も子供達の歓喜につられて、次第に一緒になって体験や制作をしている姿が印象的であった。今回、保護者からも「楽しかった」「貴重な体験になった」との感想をいただいた。子供達だけでなく保護者やスタッフも含め、参加者全員にとって記憶の残るイベントになったようであった。残念ながらイベントはどこまで行っても一過性のものでしかないが、イベントを通じて日々子供と接する保護者達の意識が多少なりとも変われば、長い目で見たときに大きな影響を及ぼすのではと考えている。今回その手ごたえを感じた。子供達と大人が一緒になって体験でき、楽しめる点は今後も大切にしていきたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

この度、ぐるぐる海友舎プロジェクトのメンバーをはじめ、江田島の協力団体、講師役の活動家、そして参加者の皆さんの協力によって、各回思い出深い充実したイベント内容になった。子供たちだけでなく大人たちもまた今回のプロジェクトを通じて協働する面白さ、重要性を再確認できた。関係者一同、今回のプロジェクトを実現するにあたり支援して下さったマツダ財団の皆さんには大変感謝している。

申請時は、4 回のイベントを予定していたが、実際には、スピノフイベントも含めて 6 回のイベントを開催することができた。また、最後の成果物として当初は、絵本をイメージしていたが、各回のアクションペインティングののびのびした成果物を眺めているうちに、絵本もアクションの精神を大切にまとめようとのアイデアが生まれ、「動く絵本」キットとして成果をまとめることになった。進めていく過程で当初計画よりプロジェクトを発展的に展開できた点は主催者である我々も取り組んでいてとても楽しかった。これから定期的に、「動く絵本」キットを使ったワークショップを開催しようと計画している。引き続き「つながりをご縁に!ご縁をカタチに!」をモットーに今回得た貴重な経験を生かして活動を展開していきたい。また機会があればご支援いただくと幸いです。